

# Health Psychologist

日本健康心理学会

2017/7

号外  $\Psi$

ヘルス・サイコロジスト

## 第5期理事長の就任にあたって



竹中晃二

### 法人の選挙制度について

本年6月4日に選挙が行われ、第5期理事長に再任されました。会員の皆様には、まず本学会の選挙制度について、その方法を簡単に説明しておきたいと思います。本学会では、2010年7月に一般社団法人化されて以来、まずは会員の皆様が任期4年間の社員を選出するようになっていきます。社員は、その4年間に、それぞれ2年間ずつの2回、理事選挙を行います。今回は、会員全員による社員選挙はなく、社員が行う2回目の理事選挙において新しい理事が選任され、その後に召集された理事会で理事長選挙、続いて常任理事の選挙が行われました。会員の皆様は、このように少々複雑な選出方法についてよくご存知ないかもしれませんが、内外に信頼される法人格を持つ学会としては、法人法に従って組織づくりや運営を行う義務があります。そのため、本学会は、今後も一般社団法人として、法人法に沿った組織および規約を整備するつもりです。近々の整備内容としては、理事、監事および社員の定数についての検討、定款および関連細則の整備、およびニーズや実態に応じた常置委員会および特別委員会の再編成、などが予定されています。

健康心理学ニーズの高まり、そして今後、本学会が行うべき課題

2016年に横浜で開催された世界最大の心理学会議、第31回国際心理学会議では、健康心理学の存在感がきわめて大きいことがわかりました。基調講演、招待講演、招待シンポジウムの数は、63ある心理学カテゴリーの中で4番目に位置し、一般申し込みシンポジウム、主題別セッション、口頭発表・ポスター発表を合わせると7番目に位置していました。世界の心理学の潮流は、まさに健康心理学に向かっていることが発表件数から読み取れます。その背景には、国際的な高齢化があり、人々が病気にならない、またたとえ病気を患っているとしても、人生を充実して生きていくために必要なところの有り様が求められていることがあります。また、現在のライフスタイルの乱れによって生活習慣病罹患者の数が増大し、その行動変容を促す必要性があります。さらには、ストレス社会、メンタルヘルスを脅かす現在社会の中で、こころの安寧をいかに保っていくかも重要な課題となっています。健康心理学は、これらのニーズに答えるべく、研究に求められる基本となる方法論を重要視しながら、時代に合わせその方法を変えて発展を遂げています。

以下、今後、本学会が行うべき直近の課題をあげます。

## 1. 30周年という節目に行うべきこと

本学会は今年で30周年を迎えました。本学会が今日あるのは、先達のご努力の賜物ではありますが、その内容は、時の経過につれて変化し、進化し続けていくことが求められます。本学会では、設立30周年の記念出版として前期7巻を編み、すでにそのうち3冊は上梓を済ませました。続巻の出版もこの秋に開催される第30回記念大会までに出版できればと考えています。

また、最近の年次大会は、懇親会に若手会員の参加が増加し、研究以外でも魅力が増していることが特徴です。明治大学で開催される第30回記念大会には、ぜひ多くの会員の参加をお待ちしています。

## 2. 医療・保健分野の組織との連携推進

我が国の健康心理学がますますの発展を遂げるためには何が必要でしょうか。世界の潮流を見ると、医療・保健分野との連携を深めることが不可欠であることがわかります。今後は、医療・保健の専門機関と連携をはかり、協働で研究や教育を進める必要性を感じています。

先の第4期では、「健康日本21推進全国連絡協議会」や「禁煙推進学術ネットワーク」に加盟し、医療系組織の枠組みの中での貢献を果たしつつあります。今期では、健康心理学の特徴を医療・保健分野に対して積極的にアピールし、共同研究や研修会の開催を進めることも考えています。

諸外国の健康心理学研究者との交流も、さらに活発化させたいと思います。昨年度は、アジア健康心理学学会議を我が国で主催するなど、諸外国、特にアジア諸国の研究者とも交流をはかる機会を得ました。今期は、さらに枠を広げつつ、日本の健康心理学の存在感を強化するつもりです。

## 3. 健康心理士会を基盤とした健康心理士の活動支援

ご存知のように、長年、心理学界が待望してきた国家資格「公認心理師」が誕生しようとしています。

学部での公認心理師養成カリキュラム25科目の中に「健康・医療心理学」が、また大学院カリキュラム10科目の中に「心の健康教育」が入り、実社会への健康心理学の具体的貢献が広く周知されるようになりました。実社会において、健康心理学の専門職が求められ、その質の保証を本学会に求められることは間違いありません。そこで、本学会認定の「健康心理士」の活動を、より充実させることを検討しています。先の第4期では、「健康心理士」の取得規定を大きく改定しました。本学会としては、今期、「健康心理士会」組織を基盤として、「健康心理士」の活動を発展させるべく強力にサポートしたいと考えています。

## 4. 中堅・若手会員の活躍をサポートし、学会を活性化

今期は、過去2年間の運営について必要なものを踏襲しつつ、意識的に新しい内容にチャレンジする期と位置づけたいと思います。特に、新しい時代に学会全体が即応できるように、中堅・若手の意見を大きく反映できる学会を目指すつもりです。そのために、学会内において、中堅・若手が遠慮なく意見が言え、積極的な活動ができる「場」づくりや、「リーダーシップ」の権限移譲を積極的に行うなど、大掛かりな若返り策を打ち出そうと考えています。

本学会は、ここ数年、会費未納が続く会員の退会を推進し、実質的にコミットする会員に限定したサービスをはかってきました。今後は、新入会員を積極的に勧誘することはもちろん、学会の魅力を高めて中堅・若手の研究者・実践家を増加させるべく努力したいと考えています。

## 5. 学会のプレゼンスをさらに高めるために

先の第4期では、学会のプレゼンスを高めることを旗印に、様々なことにチャレンジしてまいりました。例えば、編集委員会のご努力のもと、従来の学会誌「健康心理学研究」を「Journal of Health Psychology Research」に改名し、従来の研究誌と特集号に分けてJ-Stageに早期公開しています(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhpr/-char/ja/>)。

この Journal は会員以外でも見ることができます。第5期では、従来の方針を踏襲しながらも、外向きの情報発信をさらに強化します。学会の活性化は学会内部だけでなく、情報を外部に発信することも重要です。今後は、年次大会をより活性化させること、学会発信のメディアであるホームページ、ニューズレター、メールマガジンなどの充実をはかるとともに、SNSでも情報発信ができればと考えています。

以上、盛りだくさんの抱負ではありますが、マイルストーンを決めて、実現できるものから進めていくつもりですので、皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 略歴

- 1952年 大阪生まれ
- 1975年 早稲田大学教育学部卒業
- 1990年 ボストン大学大学院博士課程修了、「Doctor of Education」の学位を授与
- 2011年 九州大学人間環境学府より「博士（心理学）」の学位を授与

関西学院大学助教授、岡山大学助教授、早稲田大学人間科学部助教授を経て、1997年より早稲田大学人間科学学術院（大学院人間科学研究科・人間科学部健康福祉科学科）教授。

## 九州、秋田・新潟地方の会員の皆様へ

この度は、九州北部、また秋田・新潟県を中心とする豪雨によって、山崩れや河川の氾濫など甚大な被害に遭われた会員、またご関係の方々にはお見舞い申し上げます。復旧には、大変な日々が続くと思いますが、どうぞご自愛いただき、熱中症など二次被害に気をつけてお過ごしください。本学会の方からなんらかのご支援させていただければ幸いです。

理事長・竹中晃二

## 第5期役員

- 理事長：竹中 晃二（早稲田大学）
- 常任理事：山田 富美雄（関西福祉科学大学）（副理事長；研修委員長）
- 上地 広昭（山口大学）（広報委員長）
- 遠藤 公久（日本赤十字看護大学）（本明記念賞委員長）
- 大竹 恵子（関西学院大学）（編集委員長）
- 嶋田 洋徳（早稲田大学）（研究推進委員長）
- 清水 安夫（国際基督教大学）（国際委員長）
- 田中 共子（岡山大学）（総務・財務委員長）
- 森 和代（桜美林大学）（認定委員長）
- 事務局長：岸 太一（東邦大学）
- 事務次長：山蔦 圭輔（順天堂大学）